

【資料2】

平成21年度 佐賀市立新栄小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	
知識と知恵と人間性の調和のとれた心身ともにたくましい子どもの育成	
2 学校経営ビジョン	
明「挑戦する子」:学びをもとに、生きて働く「知恵」を身につけ、自己の能力を信じ、自己を創造していく姿 静「考える子」:基本的な学習習慣を身につけ、学ぶ喜びを体感し、「知識」(基礎学力)を獲得する姿 美「やさしい子」:体験活動や人間関係学を基盤にして、ふるさとや人を愛し、共に支えあい、よりよく生きるために「人間性」を高めようとする姿	
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1)学力の向上 ・算数、英語活動でTT、少人数等を取り入れた実践 ・読書指導の充実 (2)心豊かな児童の育成 ・地域と連携した取組みの推進 ・食を通しての健やかな心と体の育成 (3)幼保小中の連携の推進 ・ソフトプログラム「わくわく」の活用 ・連絡協議会等の充実 (4)職員の資質の向上 ・国語科を中心とした校内授業研究の充実	◎昨年度は学校の重点目標を中心に評価項目を設定し機会あるごとに情報を保護者や地域住民に提供してきたことにより全体的におおむね達成できた。(Aが12項目、Bが4項目) ○学力向上、生徒指導等については、十分達成までいかなかった。新たな目標設定－実施－見直し－改善策の実施というPDCAサイクルシステムで今後もさらに深めていきたい。 ○学習への意欲・関心を高める、魅力ある楽しい授業を実践していくために教員の資質向上が課題である。そのために、一層の研究・研修が必要である。 ○学校教育活動の充実を図るための保護者・地域との連携のあり方・啓発を継続して工夫する必要がある。 ○ 学校目標、重点目標、危機管理等については、学校便りやホームページをはじめ、携帯メール、PTA授業参観など機会あるごとに情報を提供してきた。保護者・地域の理解、協力を得る上で重要であるので今後もさらに情報提供について進めていく必要がある。

5 総括表							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知度	「学力向上、心豊かな児童の育成、幼保小中の連携、職員の資質の向上」について、教職員・児童・保護者に周知させ、認知度を80%以上にする。	A	PTA総会、学級懇談等での説明や、学校便り等での情報発信により、目標を達成できた。	PTA総会での学校長の説明や学級懇談等において担任からの学校・学級目標や具体的な取り組みの説明、また、パンフレット、学校便り、ホームページ等による情報発信を行い認知度は80%を超えた。児童へ分かりやすい目標の説明の仕方を工夫する必要がある。	
	○教職員の資質向上	校内授業研究の充実	国語科における授業改善の研究を進め、講師を招いての全校授業研究会や各学年グループによる授業研究会等で全職員が授業研究を行い、指導力の向上を図る。	A	全職員が国語科で「思いや考えを伝え合う児童の育成」を目指した授業研究を行い、児童の「読み」を深めるための言語活動を工夫することができた。	・学期ごとに全校または学年研究授業を行い、講師より指導を受ける。事前検討会や事後の研究会を充実させる。	
	○保護者・地域との連携	地域を活用する教育活動の展開 (地域の施設、人材活用等)	クラブ活動や学習指導にゲストティーチャーとして地域人材を活用したりする活動について保護者の周知度を80%以上とする。	A	クラブ活動(グラウンドゴルフ、将棋、フラワーアレンジメント、茶道)の全時間や各学年の総合的な学習の時間等に地域人材を活用し、94%の周知度であった。	・クラブ活動や学習指導に係る地域人材の開発と活用を構築し地域連携を図る。	・今年度から国語科において「思いや考えを豊かに伝え合う児童の育成」を研究主題に設定し、全学級で研究授業を行った。講師を招聘し小集団でのグループ討議を行うことで充実した研究会ができた。「読み」を深める具体的な手立てをさらに研究していきたい。
	○校種間連携(保幼小中連携)	幼保小、小中の連携を図る(12年計画等)	幼保小・小・中間の連携会議や相互授業参観、交流活動等で情報交換を行い、連携の強化を図る。	A	・幼保小については、幼・保育園の職員による1年生の授業参観及び情報交換会、次年度入学予定児童の入学体験活動等を行った。 ・小中については、ようこそ先輩(6年生への中学生による学校説明)等の交流活動を行った。	・市「わくわく」(プレスタディ、ソフトプログラム)による話し方・聴き方等の基本的な生活習慣・学習習慣について幼・保・小の共通理解・共通指導を図る。 ・小中については互いの授業参観日に訪問し、幼小については保育体験を職員が行うなど情報交換会を実施していく。	1年生における年度当初の「いきいき」の実践により、基本的な生活習慣が身につけてきている。また、夏季休業中には、本校職員が校区内の幼・保育園に出向き保育体験をすることで、9ヵ年を見通した連携の大切さを実感することができた。小中間の相互授業参観を計画的に行っていく。
	○開かれた学校づくり	学校教育活動の情報発信	学校便りやホームページ、緊急携帯メールなどで学校の取組みを定期的に発信する。	B	毎月学校便りを発行し、ホームページや緊急携帯メールで学校教育全般の情報発信をおこなった。保護者の周知度97%であった。しかし、不審者対応・避難訓練等、危機管理についての取り組みの周知度は70%程度であった。	・毎月学校便りを発行する。 ・ホームページに学校の行事の様子を掲載する。 ・緊急携帯メールで、いち早く学校の情報を保護者に伝える。	学校の行事やお知らせ等について学校便りをはじめ、学年・学級通信等でも情報発信に努めてきた。また、緊急携帯メールの登録を全家庭に呼びかけ、新型インフルエンザによる学年・学級閉鎖や授業参観等の学校情報の発信も積極的に行った。今後、ホームページの充実を図り、学校の取組みをさらに発信していく必要がある。
教育活動	●学力向上	TT、少人数指導による算数の基礎基本の徹底	全国学力・学習状況調査や佐賀県学習状況調査等の分析を行い、実態と向上への取組みを公表する。	B	基礎基本の定着を図るため、少人数やTTの指導を工夫してきた。意識調査では約90%の児童が少人数やTTは自分のためになっていると答えた。保護者のアンケートでは85%が学力向上への取り組みを評価している。	・毎時間、算数のスキル学習に取組み基礎的な計算力の充実を図る。 ・TTや少人数指導等、きめ細かな指導方法を工夫する。	全国学力・学習状況調査において、国語A・算数Bは全国とほぼ同じ、国語Bはやや上回り、算数Aはやや下回っていた。佐賀県学習状況調査については、どの教科も佐賀県の平均を上回っているが、算数の「知識・理解」、理科の「関心・意欲・態度」が、県平均より少し低かった。この結果を保護者に知らせ、全学級算数の時間に行う「すらすら計算」や指導法の更なる工夫等の改善策に取り組んだ。
	●心の教育	道徳時間の充実 あいさつの奨励	・フリー参観デーにおいて「ふれあい道徳の授業」を保護者や地域の人に公開する。 ・水曜、金曜日を「あいさつ推進日」として設定し、職員、保護者、地域、児童があいさつ運動を行う。	A	・6月に行ったフリー参観デーにおいて全学級、生命尊重等の価値内容の「ふれあい道徳」を行い、命の大切さについて考える1日とした。 ・祖父母委員会や保護者の協力を得ながら、「あいさつ推進日」を実践することができた。	・年間のPTA授業参観日に、道徳公開授業を位置付け「生命尊重」の価値を問う機会を設ける。 ・水曜日、金曜日に職員、児童、保護者、地域住民が校門に立ちあいさつ運動を行う。	・全学級が同じ日に「ふれあい道徳」を公開することで、学校、家庭で命の大切さについて考える機会をつくることができた。また、毎月1日を「いじめ防止・命の大切さを考える日」と位置づけ、学級活動や道徳において指導の時間を設けている。 ・毎週水曜日と金曜日に祖父母の会や保護者の協力を得ながら、あいさつ運動を推進した。児童が地域の中でも積極的にあいさつするような指導を継続していく。
	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の定着	・各学級における保健指導の充実を図り、ハンカチなどの携帯、手洗い、室内換気などを徹底する。 ・「早ね、早起き、朝ごはん」を合言葉にし、「新栄っ子カード」(基本的な生活習慣の定着を図るためのカード)を活用し、朝ごはんの100%の摂取、就寝時刻を早めることを目標とする。	A	・養護教諭による「保健室だより」や保健指導により、手洗い、うがい、マスク着用の意識が高まった。特に給食前は、音楽をかけることで薬用石鹸による手洗いが習慣化した。 ・「いきいき新栄っ子カード」の活用により、家庭と連携した指導を行うことができた。	・養護教諭による「保健室だより」「健康指導(熱中症予防など)をもとに、各学級で保健指導を行い、家庭への連絡もあわせ、実践化を図る。 ・「いきいき新栄っ子カード」を活用し、睡眠・食事・学習時間の実態把握とともに家庭と連携した指導を行う。	・新型インフルエンザ流行対策として、全学級に薬用石鹸を配布し手洗いの徹底を図った。特に給食前には手洗い用の音楽を流すことで意識付けを行うことができた。また、配膳台についても毎日消毒液で拭く等の対策を行った。
	○食に関する指導	健康な体づくりを意識した食育の推進	栄養教諭や学校栄養職員、担任による食育を進め、児童の意識度を高め、保護者の周知度90%以上とする。	A	・各学級の食育指導に栄養教諭、学校栄養職員がTTの形で入り指導を行うことで児童の意識を高めることができた。また、毎月「給食だより」を発行し、家庭への啓発に努めた。食育の周知度は96%であった。	・学級担任による学習指導を実施する(栄養教諭と担任とのTTも行う)。 ・食育に関する資料等を毎月発行し家庭への啓発を図る。	・学級担任や栄養教諭、学校栄養職員とのTTによる食育授業によって、著の正しい使い方や命をいただく事への感謝気持ちなど、児童の食に対する意識を高めることができた。 ・学校での食育の取り組みや給食の食材について紹介したり、楽しい食べ物クイズを載せたりした「給食だより」を毎月発行し、家庭への啓発を図った。
	○読書指導	学校図書館の活性化と個人読書量の増加	全学年で「朝の読書」に努め、読書への関心を高める。	A	図書館便りの発行や読書週間の設定、朝の読書タイムなどの取組みにより児童の読書活動への啓発ができた。80%近くの児童が図書館の本を借りて読んでいるとアンケートに答えている。	・読み聞かせボランティア「マザーズ」と連携して、読書への関心を高めさせる。 ・司書と連携し、「お奨めの本」をディスプレイし多読者ランキングの動かしをする。	毎週金曜日に「マザーズ」、月に1回「ハリー」など、読み聞かせボランティアの協力で児童の読書への興味関心が高まっている。今後、校内研究と連携し読書の質を高める手立てを考えていく必要がある。
	○特別支援教育	特別支援コーディネーター、養護教諭・生活指導員(情緒対応)、スクールカウンセラー、保護者の連携を図る。	学校内体制の充実・家庭への啓発等を行う。	B	特別支援教育に関する校内委員会を組織し、情報交換や実践を行った。保護者への啓発が課題として残っている。	・配慮を要する児童への継続的支援について、学校でサポート体制をつくり、家庭・専門機関等の連携を深め改善を図る。 ・特別支援教育についての理解を図るために学校便り等での啓発活動を行っている。	配慮を要する児童に対して、「個別の支援計画」を作成し、見通しを持って改善を図ったり、ケース会議を開いたりして組織的に支援を行ってきた。また、保護者のスクールカウンセラーの相談活動についての認知度は高く、希望者で予約が一杯の状態である。相談回数を増やすことができないか検討したい。
	●小学校低学年の学習環境の改善充実	基礎的な生活習慣の定着	幼保小の連携会議を年2回以上開催し、基本的な生活習慣・学習習慣付け等の共通認識を図る。(プレスタディ、ソフトプログラムの活用)	A	幼保小連絡会議による情報交換やソフトプログラム、「いきいき新栄っ子カード」の活用により、基本的な生活習慣や学習習慣が身につけてきている。	・幼保小連絡会議において情報交換等を行うことで、スムーズな習慣作りに生かすと共に、ソフトプログラムによる生活習慣、学習習慣の定着を図る。 ・「いきいき新栄っ子カード」で毎日の児童自身の生活を振り返らせ、基本的な学習習慣・生活習慣について、家庭と連携して定着を図っていく。	・幼保小連絡会議を計画的に行い、授業参観や保育体験など教師間の交流も積極的に行ってきた。今後も幼保からつながりを保ちながら小学校でも引き続き指導し、定着を図って生きたい。 ・基本的な生活習慣・学習習慣の定着には、家庭の協力が欠かせない。「いきいき新栄っ子カード」により家庭との連携を継続していく。

6 総合評価
○今年度は、学校の重点目標を中心に評価項目を設定し取り組んできた。ほぼ、どの項目も目標を達成することができた。
○開かれた学校づくり、学力向上、特別支援教育については、十分達成までにはいかなかった項目があった。特に学力向上については、教職員の資質向上とも絡めて取り組んでいく必要がある。
○学校での取り組みについては、学校便りや学年・学級通信、PTA授業参観、緊急携帯メールなど機会あるごとに情報を発信してきた。保護者・地域の理解と協力を得ることは重要であるのでさらに情報発信について進めていく必要がある。

7 来年度の改善策
○国語科の校内研究とも関連をはかりながら、学力向上の取り組みを構築していく。
○学校情報のさらなる発信に努める。特にホームページの充実を図っていく。

●は佐賀市共通評価項目、○は独自評価項目